

(様式例) 令和7年度都立松が谷高校における教科指導の重点

教科	重点課題	取組	発展的取組
英語	4技能の統合、特に「話すこと」「書くこと」の指導の充実	・各学年、学期に1回以上のパフォーマンステストの実施 ・パラグラフライティング及びサマリーライティングの継続的指導	・ライティングの取り組みを評価するルーブリックの開発・活用 ・1・2学年における英語スピーチ発表会の実施
国語	・「読むこと」の指導の充実 ・「話すこと・聞くこと」の指導の充実	・教科会で年間指導計画について共有、指導事項について確認する。 ・言語文化への理解と論理的に考え理解する力を醸成させる。 ・長期休業に読書レポート等読書課題を実施する。 ・毎時間の小テストで基礎学力の定着を図る。	・高校生書評合戦への参加と校内予選を実施する。 ・単元ごとにグループワークを実施する。自分の考えを的確に表現したり、他者の意見に共感したりする中で伝え合う能力を育成する。
地歴・公民	「自ら探求し課題解決を図る」能力を引き出す指導の充実。	・正確に把握した社会事象から課題を探る小論文課題の実施。 ・GMARCHレベルの記述入試問題の分析。	歴史・地理・公民等、各学会研究会の成果を利用し最新の知見・成果を授業に取り入れていく。
数学	数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動とその評価の充実	・様々な事象や演習問題のパターンを扱い、学習の過程において、本質的な知識・技能を習得できる教材を活用する。 ・3観点に基づき、生徒の実態にあった適切な評価を行う。	・新しい入試に対応する力を身に付けさせる授業や講習の実施、および評価問題の工夫。 ・自らの進路に合わせた探究活動に数学的思考力を活用する。
理科	「主体的・対話的な学び」の実現	・授業中でグループなどで対話をする場面を設定する。 ・大学入学共通テストの問題分析会を実施し、主体的・対話的な学びの実現を図る。	・「探究の過程」を踏まえた観察・実験の実施。 ・実験や実習を通じて、仮説の立て方や、データの取り扱い、実験の設計や結果の解釈を学習する。
情報	デジタルを活用したこれからの学びの実施	・多様なソフトウェアを活用し、情報活用能力を育成 ・一人1台端末の活用を軸とした授業の展開 ・多様な教材を用意し、生徒が学び方を自己決定できるようにする ・プレゼンテーションアプリを活用し、自身の考えを他者に伝えながら、自分の考えを深める活動を実施	・大学入学共通テスト及び個別学力検査を意識した指導の充実 ・それぞれの生徒の実態に合わせ、発展的な学びの時間を確保